

広島からのよびかけ

60 年前の今日、日本がひきおこした戦争の果てに、広島は不気味なキノコ雲に覆われた。人類史上初の原爆は爆風と熱線によるこの世の地獄をつくり出し、街も人も瞬時に消えた。人びとは、焼けただれた体から皮膚をボロ布のように垂れ下げ、あてどなくさまよった。目に見えぬ放射線に体を射ぬかれた人びとは、えたいの知れない病におかされた。家族を失い、友を失い、町を失い、社会を失い、人間を失った。人として生きることも、人として死ぬことも許されなかった被爆者たち。その傷跡は今なお癒えることなく、体と心の奥深く刻み込まれている。

被爆者はその苦しみをのりこえて、「原爆なくせ！」の声をあげた。それは世界に広がって、核兵器使用の手をしばり、核兵器廃絶の巨大な流れに発展した。しかし、いまなお核兵器は私たちの生存を脅かしつづけている。

私たちは、被爆 60 年の広島から、核兵器のない平和で公正な世界をめざし、行動と共同を強めるようよびかける。

原水爆禁止運動は、被爆の実相を知り、伝えることを原点に、被爆者とともに歩んできた。あの悲劇を世界のどこにもくり返すなど、つらい体験を語る被爆者の姿は、多くの人びとに感動と決意をもたらした。いのちあるかぎり語りつづける被爆者の思いを、若い世代をはじめ、私たちすべてが、しっかりと受けとめよう。

全国各地で、被爆証言活動、「聞きとり・語り伝え」運動、原爆展、原爆パネルの普及、文化的活動やインターネットの活用など、創意工夫して被爆の実相を広げよう。原爆症認定を求める集団訴訟などへの支援をいっそう強めよう。

核兵器廃絶の実現をひとにぎりの核保有国、とりわけ超大国アメリカが妨害している。その横暴に世界の批判が高まっている。私たちの運動をさらに強め、NGO・自治体・政府などが力をひとつにすれば、核兵器のない平和な世界をつくることができる。

人類を戦争の惨害から救うことを目的とし、第 1 号決議で核兵器廃絶を誓った国連は、いまこそ責任をはたさなければならない。核兵器全面禁止を主題とする国連会議の開催を要求する国際共同キャンペーンを展開しよう。

日本政府が、アメリカの「核抑止力」や核兵器使用政策を容認することをやめ、被爆国にふさわしいイニシアチブを発揮するよう強く要求しよう。非核三原則を厳守・法制化させよう。署名、ピースメッセージ、意見広告、ピースウォークなど、創意あふれるさまざまな行動を展開しよう。地方自治体に国連に向けての国際共同キャンペーンへの支持・賛同をもとめ、非核自治体宣言のとりくみをあらためて強めよう。

いま日本で、アメリカの先制攻撃政策と一体となった「戦争する国づくり」への危険な動きが急速に強まっている。これを阻止するたたかいは、アジアと世界の平和の実現につながっている。

沖縄の新基地建設をはじめ全国で米軍基地の再編・強化に反対するたたかいを強めよう。靖国参拝や歴史教科書問題など侵略戦争美化の動きをやめさせよう。憲法改悪に反対し、「憲法 9 条を守れ！」の大運動をさらにひろげよう。

私たちは行動する 核兵器も戦争もない平和で公正な世界をめざして！

ノーモア・ヒロシマ！ ノーモア・ナガサキ！ ノーモア・ヒバクシャ！ ノーモア・ウォー！

2005 年 8 月 6 日